

チョウの保護と草原保全活動について考える

熊本大学教育学部附属中学校 3年 竹内 美祝・1年 竹内 満寿美

1 研究の目的

ゴマシジミが熊本県指定天然記念物に指定され、採取禁止になった事を知った。宮崎県の絶滅危惧種ゴマシジミとヒメシロチョウの保護のために、草原の保全活動にもかかわってきた。熊本県と宮崎県での保護活動を通して保全活動の意味について考えてみた。

2 研究の方法

熊本県と宮崎県の隣り合う産地でゴマシジミとヒメシロチョウの観察を行う。

3 調査の範囲

阿蘇市波野・宮崎県五ヶ所の草原。過去にゴマシジミ・ヒメシロチョウが観察されている場所。

4 結果

	熊本県阿蘇市波野	宮崎県五ヶ所高原
シジミチョウ科	5種	4種
シロチョウ科	3種	4種
タテハチョウ科	10種	9種
セセリチョウ科	10種	3種
アゲハチョウ科	4種	1種
合計	32種	21種

5 考察

ゴマシジミやヒメシロチョウは、九州のごく一部にしか生息していない。その数少ない生息地が今回の観察ポイントである。人間は地図上に「県境」という線を引くが、昆虫には関係ないと思っていた。実際、宮崎県の生息地と熊本県の生息地は近い所では10km程度しか離れていない。これは、チョウにとって遠くはない距離である。もちろん、気候もほとんど変わらない。10kmしか離れていない生息地で片方は絶滅の危機、もう片方は乱舞といった状況である。そうすると、後は自然以外の要因があるとはしか考えられない。

過去3年間の観察結果を振り返ると、熊本県の草原の1部（約1ha）で確認されたチョウは32種であるが、宮崎県の草原（約10ha）で確認されたチョウは21種であった（熊本で宮崎県の草原と同じ程度の範囲に広げると38種を確認）。

今回調査した範囲で考えると 熊本：宮崎＝3：2 熊本県阿蘇市波野の狭い範囲で1.5～1.8倍の種類のチョウが確認された。

チョウの種類に着眼すると、熊本県…10種・宮崎県…3種と、セセリチョウの生息に大きな差がみられる。セセリチョウの食草は、主にイネ科の植物だと言われている。イネ科の植物は種類が多く、草原にはたくさんの種類のイネ科植物が生えている。それらを食べて生活するセセリチョウの減少から、宮崎県五ヶ所高原の草原ではイネ科植物の種類が減少し、草原構成植物の単純化が起こっていると考えられる。

人間が手をかけることで草原が維持されている事は万人の知る所である。しかし、手のかけ方で草原の在り方が大きく変わってしまう恐ろしさもあると感じた。「生きた草原」を作るためにはその方法を学ばなければならないと強く感じた。

阿蘇の自然を守ってきた先人たちの知恵に感動した。大いなる敬意と感謝を表したいと思う。